

来年度軍事費は5兆円!

生活を守るためにも戦争法は廃止を!

「戦争法」態勢実現のため膨大な軍事費

昨年9月に無理やり成立させられた「戦争法」は、日本を「実際に戦争できる国」に作り替えるものです。そのためには、最新鋭の兵器を買いそろえ、実際に運用できる態勢を作らねばなりません。それには膨大な費用がかかります。来年度予算案で、軍事費は今年度比1.5%増の5兆541億円。第2次安倍政権のもとで、4年連続増加し、史上初めて5兆円を超えます。この膨大な軍事費で、1機100億円の新型輸送機オスプレイ4機、地上設備を含めて1000億円の無人偵察機グローバルホーク、200億円以上するF35Aステルス戦闘機、新型早期警戒機E2D、1675億円のイージス艦1隻などを導入します。これらはすべて、米と協力して中国を軍事的に包囲し、戦争も辞さない態勢を敷くことが、第一の目的です。さらに自衛隊を、中東をはじめ「地球の裏側」までも恒常的に派兵することも目的です。しかも、武器代金の支払いは「後年度負担」。ローンで購入するため長期にわたって予算を圧迫し、「軍事費を減らしたくても減らせない」状態にするのです。また、いわゆる「思いやり予算」も増額することで日米が合意しました。来年度から5年間の総額は9465億円で、今年度までの5年間で133億円上回ります。

軍事費を削れば大学学費を上げずにすむ

国は膨大な借金を抱えているため、財政健全化計画で、社会保障費を除く政策予算の伸びを今後3年で計1千億円に抑えるとしています。ところが、来年度の軍事費の伸びだけで、その1千億円の大半を占めてしまうのです。こんなことをすれば、生活関連にまわす予算を削るしかありません。安倍政権が、生活よりも軍事を優先しているのは明白です。

例えば、文教予算（科学技術振興予算を除く）は0.19%減。公立小中学校の教職員の定数を3475人減らすなどして、予算を削り込んでいます。文教予算は今後も長期にわたって押さえ込む計画で、それは私たちの生活に大きく影響します。たとえば文部科学省は、国立大学運営費交付金を削減して、現在でも年間約54万円の国立大の授業料を16年後には約93万円にするという試算さえ行っています。ますます大学生やその家庭を追い詰め、経済的理由で大学に通えない人を増やすのは確実です。しかし、ここまでやって削減する額は1200億円程度です。軍事費5兆円の一部でもまわせば、学費を上げずにすむのではないのでしょうか。

生活を切り捨てて武器を買うなんてもってのほか

来年には、消費税の増税も待ち構えています。「社会保障のため」だったはずの消費税増税も、軍事費につぎ込まれる構図になっています。私たちの生活を切り捨てて武器を買うなんてもってのほかです！ 軍事費を削減し、私たちの生活を守るためにも、戦争法の廃止を求めます。

企画案内 リブインピース@カフェ

「戦争法で軍事費膨張！ とうなる生活！？」

1月31日（日曜日）13:30～16:30 中央区民センター（地下鉄堺筋本町）

沖縄・辺野古と東村高江を訪れて・・・

“僕達はあきらめない。相手より1日だけ長く頑張る”

現在沖縄で、安倍政権は民意に反し^{へのこ}辺野古新基地建設を強行しています。沖縄の「自決権」や人権をないがしろにしています。沖縄県民と翁長^{おなが}知事は、毅然として辺野古新基地を跳ね返し、「自決権」を取り戻す闘いを推し進めています。「沖縄の現状を知りたい、闘っている人々の声を訊きたい」という思いで私たちは昨年末沖縄を訪れました。

12月26日、まず、オスプレイ用ヘリパット建設に反対して座り込みを続けている^{ひがしそんたかえ}東村高江のテントを訪ね、話を聞きました。“沖縄は変わりました。辺野古もここも一体です”と。青い空の下に広がる^{やんばる}山原の森全体が米軍基地です。反対住民による24時間の座り込みも警戒も解かれていませんでした。

その後、唯一住民も共用できるという山原の中の道を走って、辺野古へ向かいました。両側の道端に人々と長く続いているテントが、突然目に入ってきました。キャンプシュワブのゲート前に着いたきましが、沢山の人で駐車もできないほどでした。



辺野古の浜のテント村では、辺野古を訪れた若い人達のグループと一緒に、私たちも説明を聞きました。“この闘いは19年続いている、辺野古の海は宝物、辺野古に新基地は造らせない。僕達はあきらめない。相手より1日だけ長く頑張る”と。沖縄の人々の思いが詰まった言葉が、ズシンと響いてきました。ゲート前では、歌や踊りなどもあって、参加

者が交流を深めているそうです。

辺野古から^{なほ}那覇市に戻った夜「琉球新報」をめくると、一面トップに「県が国を提訴」という大見出しで、「取り消し停止『違法』」「県民の誇り、尊厳守る」という翁長知事の工事阻止への決意が述べられていました。

27日朝は、^{かてな}嘉手納町の道の駅へ。3階の資料室は、壁に沿ってフェンスが張られ、嘉手納町の歴史や人々の暮らし、町の面積の87%を占める米軍基地の実態などが、フェンスの中から見ているような感覚になるように、展示されていました。

その後、県庁前のビルで“琉球処分と沖縄”というテーマの展示会を見に行きました。明治政府によって「ヤマト化」がいかに強権的に進められたかを、改めて知りました。沖縄を「捨て石」にしてきた歴史の始まりもその後の歴史も、私たちはどれだけ知っているのでしょうか。

28日朝、空港で時間待ちをしました。那覇空港には航空自衛隊基地が併設されています。待合室から、戦闘機が並んでいるのがまるまる見えていました。それだけでありません。年末で、民間機に遅れが出るほど混み合っているのに、その合間に、民間機と同じ滑走路を使って、戦闘機がすごい爆音をさせながら、4機も飛びたちました。これが沖縄の日常、これが沖縄の現実なのだ痛く思い知らされました。丸2日間の沖縄の旅でしたが、知りえたこと、聞いたことを1人でも多くの人に伝えて、沖縄の闘いを支持し、共に闘う人が増えてほしいと強く思いました。（アーさん）

本土から辺野古新基地反対の声を



ライブ・イン・ピース☆9+25

TEL 090-5094-9483 (事務局 大阪) E-mail liveinpeace_heiwa@yahoo.co.jp

<http://www.liveinpeace925.com/>

http://blog.goo.ne.jp/liveinpeace_925